



面を貼り合わせて組立てた。



3歳児・R児

子供目線にならうぜ。

見取る

その子の目になって

R児が段ボール箱を引いている。ズー、ズー。紐を引くたびに、箱がアスファルトに擦れて音が鳴る。動物のお散歩だろ。うか。いや、車を動かしているのかもしれない。R児が楽しんでいる見立てを探ろうと、そうとう近づいてみた。ズー、ズー。R児の目線は箱に向いたまま。道には、昨日までの雨が置き土産していつた水溜まりがあちこちにあった。R児は、それかわしながら引くのも楽しんだ。ズー、ズー。箱の正体はまだ分からない。でも、その段ボール箱がR児にとって無機質なただの箱でないことは、確かに。R児が段ボール箱に働かせている想像力を、こちらにも想像を膨らませながら見入っているうちに、ズー、ズーの擦れ音が、何とも可愛らしい音に聞こえてくる。R児はこの音をどんな思いで聞いているのだろうか。それにしてもこの黄色のガムテープは何なのだろう。気になり、担任のN先生に尋ねてみた。私「黄色は模様ですか」N「R児が面を一枚一枚貼ったんですよ」さつき撮らせてもらった写真を、拡大して改めて確かめてみる。本当だ、箱だと思っていたそれは、

一枚一枚の面を貼り合わせて組み立てた箱だった。私「どうしてこうなったのですか？」N「R児は朝、トラックをつくるって言って」N「箱を出してあげたらバラバラにしてほし」と言われました。私「私なら、バラバラにしたらトラックの箱が壊れちゃうよと、言ってしまうそう」N「最初はR児のやりたがっていることが分からなかったのですが、言われた通り、箱を面ごとに切ってバラバラにしました」N「そしたらR児がそれを組立て始めたので、組立てるところからやりたかったのかと理解しました」私「R児が一人です？」N「手で覚えてあげたの、ガムテープを切るのを手伝ったりしました。でも組立てるイメージはR児の中にありました」私「すごいですね」N「はい。R児の頭のイメージ、覗けるものなら、本当に、覗いてみたいですよ」この子の頭の中を覗いてみたい、と心を寄せ、N先生は日々、一人一人の子供と関わっているんだなと、私は、感動しながらメモを取った。

現在、次期学習指導要領等改訂に向けて協議が進められています。その中で、生活科の資料に「見取る姿(仮称)」が示されました。児童の例えば「思いや願いをもつ対象に関わろうとしている姿」を継続的に見取ることは、その子のよさや成長を肯定的に理解することにつながり、次時の学習活動を構想する際の材料にもなります。保育者は、子供をどのように見取るうとしていくのでしょうか。本事例のN先生は「R児の頭の中を覗きたい」と話してくれました。R児が見ている世界を一緒に感じてみたい、と願っているのです。R児をどのように見取るかの前に、「私もR児と同じ目になって、R児を働かせて、環境と出会い直したい」という願いです。トラックを動かすこと等、R児は今、対象にどんな思いを巡らしているのか、どんなイメージを描いているのか、何が面白いと感じているのか。トラックをつくりたい思いで段ボール箱と出会ったR児と共に、教師も心を震わせ環境と出会ってみる見取りが始まっていたのです。

保育者のここがすごい
～その子になる～



トラックを組立てるR児。

アンケートのご協力をお願いいたします
右の2次元コードを読み取るか
クリックで回答をお願いします



幼小通信
配信登録

メールアドレスのご登録はこちらまで



発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課 ☎023-630-3416
山形県幼児教育センター kuraokat.pref.yamagata.jp
※1「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用

